

「子供たちの通う小学校からスタジアムなどの大型施設への対応まで幅広い修繕事業を担当する横浜市建築保全公社」の修繕事業

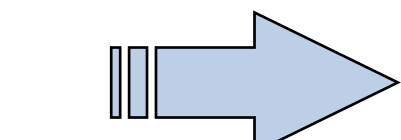
公益財団法人横浜市建築保全公社は、公共施設（約2,500）の老朽化による機能低下や利用者の日常的な施設利用上の安全確保のために、平成26年度は、大小規模をとわず約1000件の補修等修繕事業を行っており、その具体的事例の一部を紹介します。

【小学校の給食室】

小学校の給食室は、既に30年が経過している所もあり、建築局と教育委員会が計画修繕を行っています。これに建築保全公社が技術的側面での支援をして、施設管理者と一体となり、機能性の向上、安全・質の向上、コストの平準化に取り組んでいます。



調理室内（改修前）



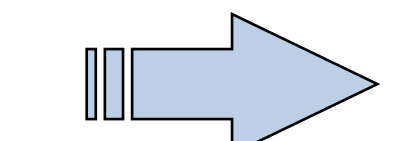
※床や給食機器（回転釜等）が新しくきれいになりました



調理室内（改修後）



配膳スペース（改修前）



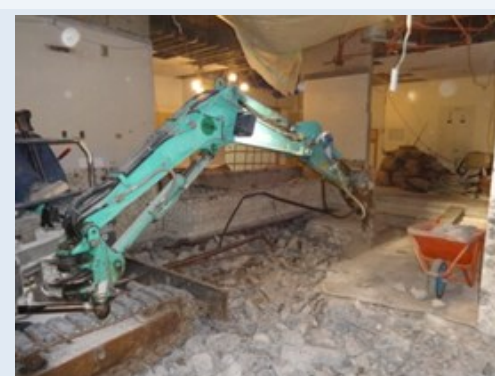
※壁、アルミサッシが新しく使いやすくなりました



配膳スペース（改修後）

施工プロセス

【解体】



【床配筋】



【設備配管の敷設】



【床スラブの打設】



【間仕切りの設置】



【床の仕上げ】



【サッシの取り付け】



【回転釜の設置】



【設備機器の設置】



【新横浜公園日産スタジアム】

■開催イベントに配慮し安全を第一とした大規模施設の改修

安全性及び機能性の向上を踏まえた建物の長寿命化を図る改修工事を継続的に行っており、本年度で5年目を迎えます。

（改修コストの平準化を目的とした保全計画（30年間）の実行）

24時間開放されている新横浜公園内の日産スタジアムの改修は、施設利用者の安全に配慮した施工計画が必要



口計画的な改修：外壁、内部床仕上げやサインの更新



（改修後）



（改修後）



（改修後）



（改修後）

口大規模かつ特殊な施設における工事のむずかしさ



（工事中）



（工事中）



（工事中）



（工事中）

Jリーグ、陸上等のイベントにより、オフシーズン（12月～2月）が工事時期の中心となっています



※建築の法定点検では、点検用の狭い通路を通り、点検口から屋根に！



公益財団法人 横浜市建築保全公社とは

当社は、昭和61年に設立され、平成23年4月に公益財団法人に移行し、来年30周年を迎えます。

今日まで、公共施設の保全に関する専門組織として歩んできました。現在保育園、小・中・高等学校、地区センター、福祉施設、病院、図書館、庁舎施設など様々な公共施設の保全業務に務まっており、これまで培ってきた技術やノウハウを基に、建物や設備の修繕・更新に取り組み、施設の長寿命化に貢献しています。また、保全技術の調査研究事業として平成23年度より建築基準法第12条点検及び横浜市独自で行っている劣化調査を実施し昨年は463施設の点検・調査を行っています。